

のとがわちく ちゅうせいじょうかん 能登川地区の中世城館

所在地：東近江市能登川地区

遺跡の概要

戦国時代、東西交通の要衝であった近江国（滋賀県）には、1300 を超える城や館があったことがわかっています。

東近江市能登川地区にも安土城築造以前に城や館がありました。史実に記載されていたもの、地名や土塁・堀などの構造物などから城や館の存在を想定できるのものなど様々です。

城館は、堀、土塁、虎口や櫓といった防御施設で構成され、集落内の居館と山に築かれた山城がありました。平時は居館に住み、戦時体制時には山城を詰城として利用していました。

能登川地区の城館は、琵琶湖に近く河川が発達しているなどの条件から、水堀が発達したと考えられます。水堀は灌漑用や水運にも利用され、生活に密着した施設でもあったようです。

ここでは、能登川地区の城館を紹介します。



佐生城遺跡 石垣

能登川地区の中世城館一覧表

町名	旧村名	No.	城館名	城館主・領主	小字名
佐生	佐生	1	佐生城	後藤氏	
長勝寺	長勝寺	2	和田山城	和田氏	
佐野	佐野	3	佐野館	須田氏	(政所立)
種	種	4	種村城	種村氏	
		5	八仏手城		屋堂
今	今	6	今村城	上林氏	
垣見	垣見	7	垣見城	安部井氏、永田氏	殿屋敷、姫屋敷
猪子	猪子	8	猪子館	猪子氏、徳永氏	
能登川	能登川	9	伊庭御殿	徳川氏	御屋敷、御殿地
北須田	北須田	10	須田館	須田氏	
南須田	南須田	11	安土城	織田氏	
伊庭	伊庭	12	伊庭城	伊庭氏、徳永氏	城、西殿、東殿
		13	伊庭古城城		古城
山路	山路	14	山路城	山路氏	城
躰光寺	躰光寺	15	躰光寺城	躰光寺氏	
		16	国領城	国領(高橋)氏	(王屋敷)
小川	小川	17	小川城	小川氏	城ノ内(城ノ町)、城屋敷
川南	川南	18	川南城	高橋氏、川南氏	
阿弥陀堂	阿弥陀堂	19	阿弥陀堂城	竹中氏(妙観音)、井ノ口氏	
新宮	新	20	新村(志村)城	志村(新村)氏	
	宮西			井原田氏	
福堂	福堂	21	福堂館	大澤氏、伊具氏	

※番号は地図の番号と合致します。

※**強調文字**については、現在所在地が確認できる城跡、その他のものについては文献などから存在は考えられるが、所在地が確認できない城館です。



城関係する地名が残る橋
 上：小川城遺跡付近の「城の橋」
 右：山路城遺跡付近の「城前橋」

1 佐生城

佐生城遺跡は、湖東平野に存在する織（きぬがさ）山（標高 432m）から北方向に延びる、通称佐生山の尾根上の先端部（標高 158m）に立地しています。この城の城主は、中世、織山山上に観音寺城を築いた佐々木六角氏の家臣、後藤氏と伝えられています。

佐生城の規模は、平成 25・26 年度に実施した測量調査によって、東西 47m、南北 34m の広さの平坦部から構成されていることがわかり、平面形態はほぼ三角形を呈しています。

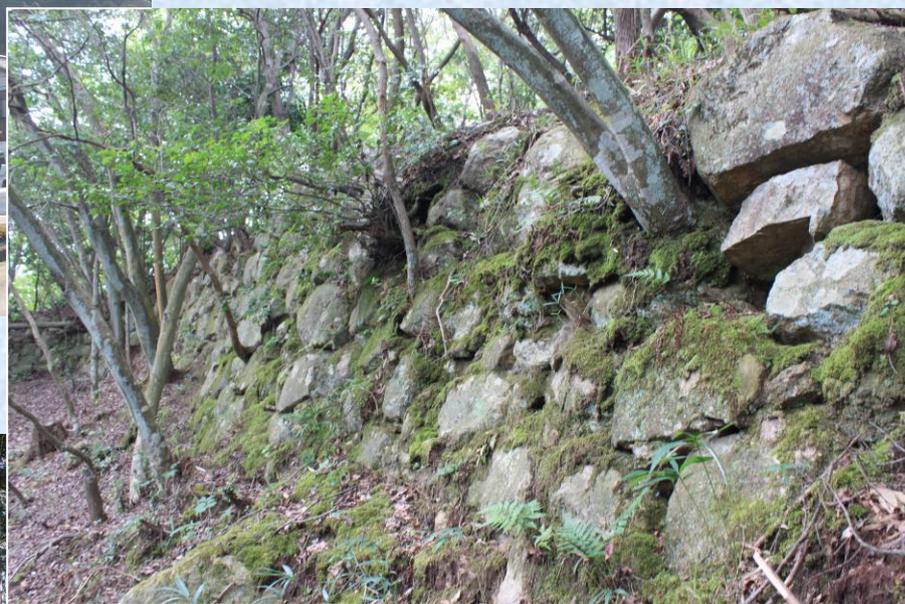
また、城南面には長さ 56m、高さ 1~4.5m の石垣が比較的良好に残存しています。特に南西隅では残存高 4.5m の石垣が存在しており、そのコーナー部分には算木積みと呼ばれる石積みの状況がよく観察できます。

佐生城は、その立地から織山の北方を移動する戦国期の諸軍勢の動きをすぐに察知することができたことでしょう。

なお、後藤氏は東近江市上羽田町に居を構え、現在もその居館には土塁や石垣が存在しており「県史跡 後藤館跡」として保存されています。



佐生城遺跡 遠景



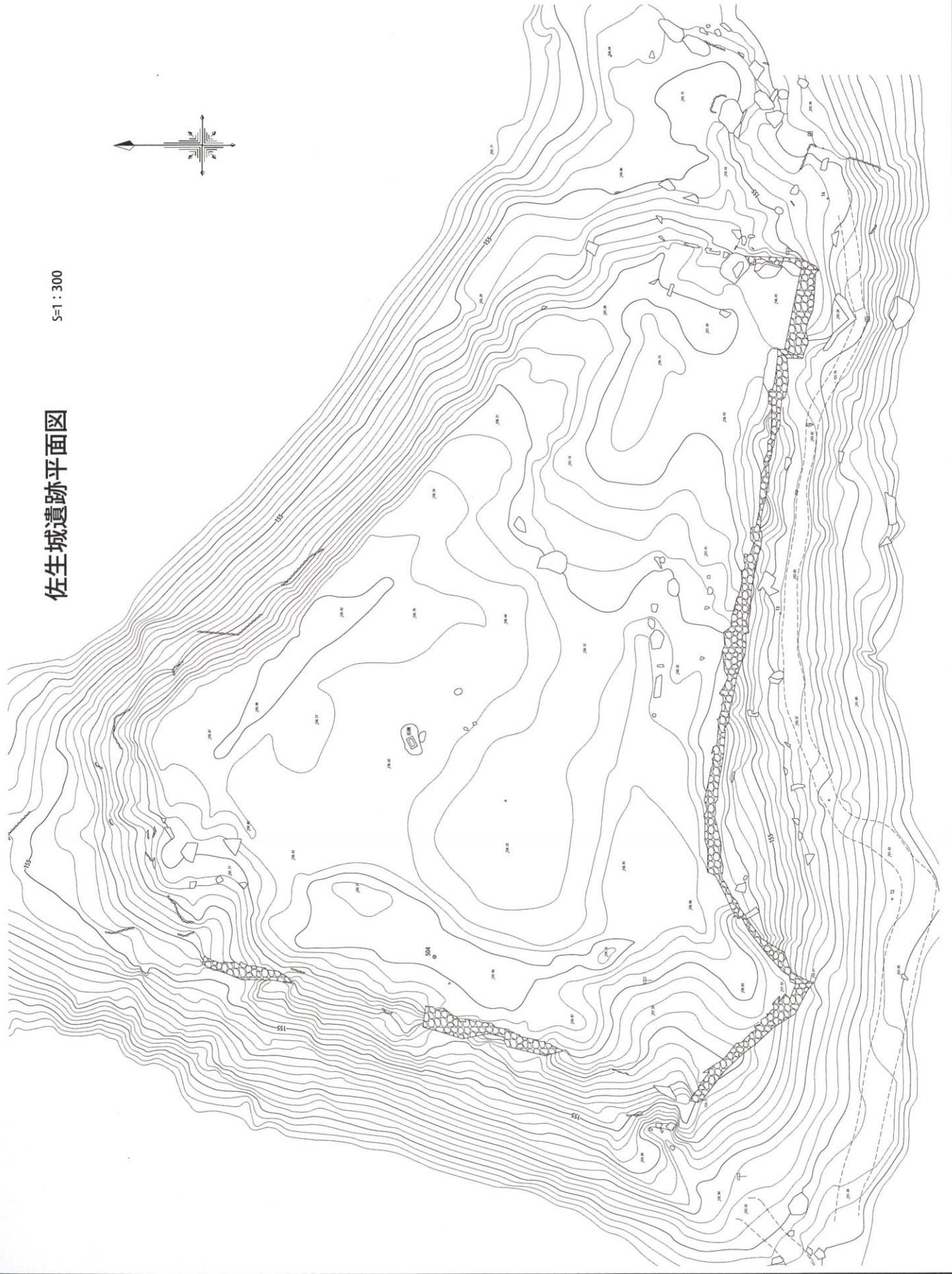
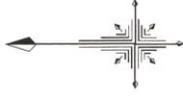
佐生城遺跡 石垣



佐生城遺跡 郭内

佐生城遺跡平面図

S=1:300



00091-A

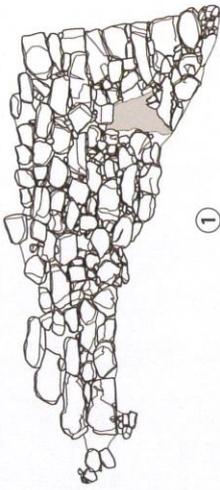
2000000

00001-A

00001-A

2000000

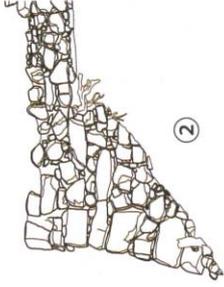
H=158m
H=157m
H=156m
H=155m
H=154m
H=153m



①

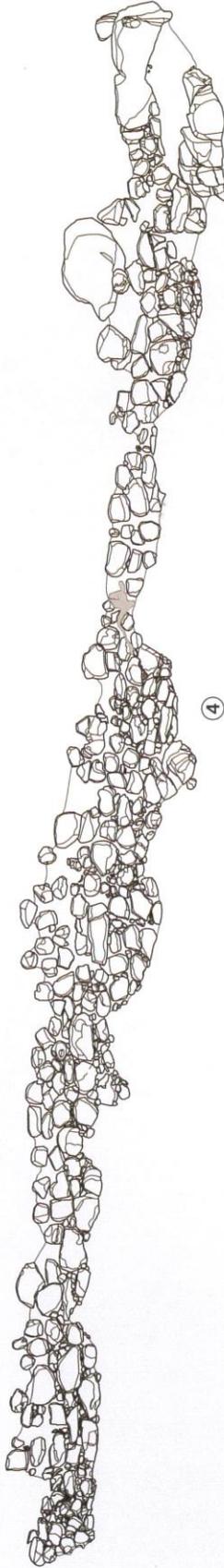
H=158m
H=157m
H=156m
H=155m
H=154m
H=153m

H=158m
H=157m
H=156m
H=155m
H=154m
H=153m
H=152m



②

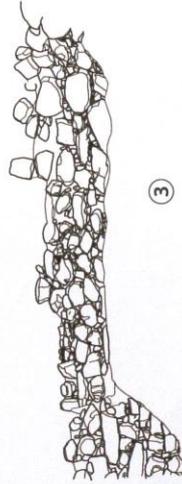
H=158m
H=157m
H=156m
H=155m
H=154m
H=153m



④

H=158m
H=157m
H=156m
H=155m
H=154m
H=153m

H=160m
H=159m
H=158m
H=157m
H=156m
H=155m
H=154m



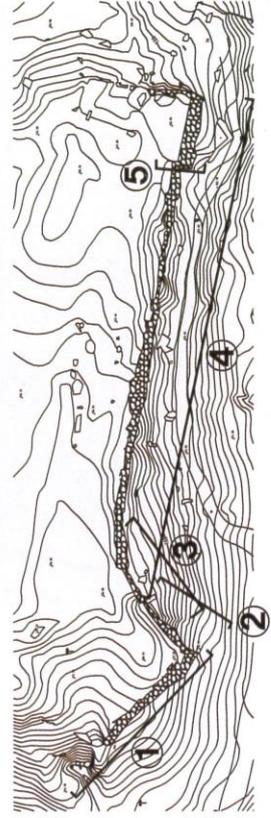
③

H=157m
H=156m
H=155m
H=154m
H=153m



⑤

H=157m
H=156m
H=155m
H=154m
H=153m



佐生城遺跡石垣立面図

20 志村城

新宮町には、志村氏の居城志村城がありました。『信長公記』によると、元龜2年（1571）織田信長の攻撃で落城してしまいました。城跡の推定地は新宮町のしょうれんじ乗蓮寺北東側一帯と考えられていて、明治初期の耕地整理図には広大な藪地が記されています。なお、乗蓮寺前の道路脇には、城主の墓と伝わる宝篋印塔ほうきょういんとう1基が残されています。

14 山路城

城は、集落内の中央部の小字「城」を中心に存在していたものと考えられます。山路川は、屈曲して流れているため、川が城の堀として利用されていた可能性があります。山路川にかかると橋を「城前橋」と呼ぶことから川が堀であったことを伺わせるものです。

集落内には、「城」「城西」「南川」「海前」など、城を想像させる地名が残っています。

12 伊庭城

近江守護職佐々木六角氏の守護代伊庭氏の居城です。現在のきん謹

せつかん節館付近に比定され、周囲には、「西殿」「東殿」という小字名があり、伊庭城が存在していたと考えられます。

12 伊庭城

安土城跡（国特別史跡）

織田信長の居城で天正4年（1576）に標高196mの安土山山頂に築かれた5層7階の天守閣をもつ本格的な城です。また初めて屋根に金箔瓦きんぱくわを葺いた城としても有名です。昭和27年にきぬがさ町から発見された金箔瓦は、残存状態もよく市指定文化財として、埋蔵文化財センターで保管されています。



安土城跡出土金箔瓦

安土城

18 川南城

じょうどし

浄土寺の東側に比定されています。寺の南北の川を堀とし

て利用し、^{やぶ}藪には土塁や堀跡が残っています。

史料より高橋^{たかはしたしまかみ}但馬守が川南城主であったようです。なお、^{ちせきす}地籍図などから大同川より川の水を引き込み堀としていたことが読み取れます。

2 和田山城

佐生城とともに、観音寺城（国史跡）の支城の一つです。織山の北東に位置する独立山塊である和田山山頂180mに築造された城です。城の大きさは小規模ながら土塁や空堀が残っています。

4 種村城

種は種村氏の支配地で、種村城は小字「木代保」^{きだいほ}に所在したといわれ、^{わんきょく}湾曲して貫流する大同川の水を引き込んで堀として利用していたと考えられています。

7 垣見城

たいこうじがわ

こんこうじ

垣見城は、^{たいこうじがわ}鉢光寺川が大きく蛇行する^{こんこうじ}金剛寺の東側付近で、周辺より一段高い場所となる小字「^{とのやしき}殿屋敷」にあったと考えられています。^{むらのうち}鉢光寺川は、集落内の小字「村ノ内」を囲うように屈曲して流れていて、堀の役目をはたしていたのかもしれませんが。

なお、集落内には^{ひめやしき}「姫屋敷」という地名も残っています。

17 小川城

小川氏の居城として比定されています。小川城も信長の攻撃を受けましたが、城主の小川孫一郎^{おがわまごいちろうすけただ}祐忠が人質を差し出したため許されています。城跡推定地は小字「^{しろのうち}城ノ内」を中心とし、周辺には「^{みまや}御厩」「^{しもしぬすみ}下乾角」「^{かみいぬすみ}上乾角」「^{きたぐち}北口」など居館を想像させる地名が残っています。





東近江市能登川地区航空写真

所在地：東近江市能登川地区
 アクセス：JR琵琶湖線能登川駅下車
 名神高速道路八日市I.Cより車で約30分

関係する報告書等

- ・「町内遺跡分布調査報告書」『能登川町埋蔵文化財調査報告書』第3集
 能登川町教育委員会 昭和61年
- ・『滋賀県中世城郭分布調査4』（旧蒲生・神崎郡の城）滋賀県教育委員会 昭和61年
- ・『東近江市 能登川の歴史 ダイジェスト版』東近江市 平27年



東近江市の遺跡シリーズ17「能登川地区の中世城館」

編集・発行：東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町2225

TEL:0748-42-5011 IP:050-5801-5011 FAX:0748-42-5816

[平成29年3月発行]

このパンフレットは特色ある埋蔵文化財活用事業の補助金を得て作成しました。